

令和3年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 西和佐小 学校
校長氏名	藪本 みゆき
作成日	令和 4年 2月 1日

1 教育目標

強いからだと明るい心をもつ子どもの育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や県学習到達度調査で正當数の県平均値を目指す ・児童がわかる授業、児童主体の授業を実践する(教員90%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が「楽しい」と感じる(児童90%以上) ・「特別の教科 道徳」の授業が「楽しい」と感じる(児童80%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝ごはんを食べてくる(児童95%以上) ・体力テストの平均値を県平均以上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子供の活動の様子をわかりやすく伝えられている」(保護者90%以上) ・地域への情報発信が行えた(保護者90%以上・地域の方等の声)
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎・基本の確かな学力 ◎児童主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎人権・同和教育を推進するとともに、人権意識の高揚に努める。 ◎道徳教育を柱とした教育活動の充実 ◎自他共に大切にしている教育活動の実践 ○仲間づくり活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎基本的な生活習慣の確立 ◎体力向上の推進 ○危機回避能力の育成 ○人間の体を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者の子育てや教育に対する意識を高める。 ◎地域の教育資源や人材を活用しながら交流活動を行う ◎幼・小接続の推進 ○ホームページを充実させ情報発信
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の徹底を図る ○「基礎タイム」の時間を活用し、基礎学力の定着を図る ○話す力・聞く力・話し合う力・書く力とコミュニケーション・スキルの系統的に取り組み、生きる力を育む。 ○「家庭学習の手引き」を参考に保護者の協力のもと家庭学習の定着を図る ○必ず「朝読」の時間を確保し、読書を習慣づける 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全体を通じて地域・教職員子供双方の信頼関係を築く。 ○職員は保護者との連絡を通して、子供のよさを共有しながら心豊かな子どもを育成する。 ○「特別の教科 道徳」で児童がしっかり考え話し合う活動を大切にす ○いじめアンケートを複数回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める ○情報モラルやネット社会に潜む危険について、保護者と共に学ぶ機会をもつ ○各行事において主体的に子供たちが関わる機会をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨する ○体育科で活動時間を多く取り入れるように工夫する ○晴れの日は運動場で体を動かすように声かけをする ○避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力を育成する ○「保健」の教科学習や保健行事を行うなかで、自分の体について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級懇談会で児童の様子を伝えたり、教育講演会等を開催したりして、保護者の子育てや教育に対する意識を高める。 ○地域の自然や文化を積極的に活用する ○地域の方々や関連した方々をゲストティーチャーとして依頼し、地域学習を推進する ○学校開放月間を充実させる。 ○運営委員会に幼稚園教頭も参加し、幼・小連携の充実を図る ○各種便利やホームページなどを通して積極的に情報を発信する
取組の成果と課題(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の全国学力調査では国語科は県・全国平均とほとんど変わらなかった。しかし、意味を理解して書くことに課題が残る。 ・算数科では県や全国平均よりも8ポイントも低かった。 ・問題の中の取捨選択ができていないため、読み込めないのだと考える。 ・反対に立式ができて回答を引き出すことができていないものもある。しかしそのプロセスを書いて説明することができない。 ・休日参観は「幼小合同学年発表会」にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和集会在毎年あり、和歌山の空襲について学んでいる。続けるべきだと思うが、日本は戦争の加害者であることを知らず、被害者であると思っている児童が多い。加害の分もしっかり認めて戦争のない国にしたいと思う。 ・年々低年齢化するスマートフォンの利用者であるが、少年センターに情報モラル教育を今年度は3・4年生と5・6年生に分けて行っていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は休憩時間には暑くても寒くても運動場で遊べる時は元気に外遊びをしていた。 ・避難訓練を毎学期想定を変えて行った。児童は真剣な思いで取り組んでいた。 ・避難訓練ではないときに実際の地震が起こり、サイレンが鳴った。訓練をすると予告して行ったものではなかったため、児童の本当の姿が見えた。それは楽しんでいる風でもあったので、指導したがすぐに私の真剣さが伝わったようで印象深い体験になったようだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めて学校だよりを地域の回覧と一緒に回してもらえるようにした。 ・3年生が毎年行っている「ふれあい集会」はよいことだと思いがもち方を考えていかなければならないと感じた。
改善方法(A)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標に学力について表されていないため、しっかり表記したい ・まず児童が苦手とする国語科の基本である「読むこと」「書くこと」に力を入れながらコミュニケーション力も上げていきたい。 ・家庭学習は保護者の協力が必要であるため啓発することを大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの研修を保護者にも啓発し、児童と一緒に受けていただき、高価なものを持たせることへの責任と、それを使用することによって起こる様々なトラブルについてももしっかり責任をもってもらえるようにしていきたい。 ・保護者は家庭でのことでも学校を頼ってくれるが、スマートフォン等を使用するのは学校のことではないので価値のつけ方や家庭での児童との話し合いをききんとしていただけるように啓発していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な流れであるが、今年度からは運動会を午前中開催で行っていくことにした。運動会の練習のために体育科の教科としての時数が不足していたが、余裕ができた。児童にも同じように余裕を感じた。 ・昨年度は運動会の保護者参観者1人と聞いたが、アンケートを取って2人と乳幼児は来てもらえるようにした。やはり参観者が多いと児童は張り切っていたように思われる。今年度を見ていて、場所取りもないため、自身の子供の時にしかカメラ席に保護者はいないし、マスクはきちんと着用していただいていたので、人数制限の必要はないのではないかと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 早くコロナ禍が収束して、自由に地域の方に学校を訪問していただき、ボランティアとして活動していただいたり、私たち教職員が知らないこと等、様々なことを教えていただいたりしたい。

3 その他の課題

・コロナ禍の中でもできることをできるような形で行おうと思っていたが、3密を避けることを考えると中止せざるを得ず、保護者の皆さんとも地域の皆さんともなかなか交流する機会がもてず、今年度本校に着任したばかりのため、残念で悔しい思いでいっぱいである。

・「例年通り」が当たり前のように進んでいった。「例年通り」が悪いわけではないが、「やったらいい。」というように私には感じ、進歩が見えないと思うことが多かった。どんどん新しいことを取り入れたり、精査したりして通り返組む必要性を大変感じた。

・学年、学級閉鎖や臨時休校により各教科時数確保のため、アンケートのお願いを躊躇してしまい、指標が関係なくなってしまう。